

第5回 分子病理学教室セミナー

よしむら あきひこ

演者 吉村 昭彦 先生

慶應義塾大学医学部
微生物学・免疫学 教授



「抗腫瘍免疫におけるT細胞の 疲弊化の分子機構とその解除」

2023年3月27日(月)12:00～

医学部中棟 共通セミナー室 3-1

要旨

がんの免疫療法においてがん細胞を殺傷する主要な細胞は細胞傷害性T細胞(CTL)であるが、最終的にはCTLは死滅するか、あるいは「疲弊」と呼ばれる不応答の状態に陥る。T細胞の疲弊化は腫瘍免疫の効果を減弱させるだけではなく、チェックポイント阻害療法抵抗性の原因となる。しかしT細胞疲弊化の分子機構の解明と応用は始まったばかりである。現在様々な疲弊関連分子の遺伝子を破壊することでCAR-Tなどの細胞移入療法を増強する試みがなされている。我々はCD8+T細胞の疲弊化を担う転写因子としてNR4aを同定した。NR4aをCD8+T細胞で欠損させると、T細胞は疲弊化しにくく、強い抗腫瘍効果を持っていた(Nature.2019; 567: 530-534)。NR4aによる疲弊化の分子機構とその阻害による抗腫瘍免疫の増強について我々の研究を中心に紹介したい。

責任者: 分子病理学教室 谷口 浩二 (内線5050)

E-mail: path1@med.hokudai.ac.jp